

学年										小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画			
小学校						中学校							
1	2	3	4	5	6	①	2	3					
月	単元名	からだづくり運動 (7単位時間以上)				単元の系統性	小学校高学年では、運動の楽しさや喜びを味わい、行い方を理解する学習をしてきていることを踏まえ、体づくり運動の意義と体の動きを高める方法などを理解させながら、目的に適した運動を組み合わせるようにする。						
4 ・ 通 年	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫							
	<p>・体ほぐしの運動 例)ラジオ体操、集団行動、鬼ごっこ、足でジャンケン&あっち向いてほい…など</p> <p>・体の動きを高める運動 例)毎時間の補強運動、ランニング、各単元の際に応じた体力を高める運動…など</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>(主体的) 毎時間のランニングでは、前回のタイムを示すことで目標を提示し、意欲をもって参加できるようにする。</p> <p>〈対話的〉 鬼ごっこや足でジャンケンなどの体ほぐしの運動において、自分たちで特別ルールなどを作らせて対話を生むなどの工夫をする。</p> <p>〈深い学び〉 各単元ごとに必要な体力などを提示することで、体の動きを高めることと運動の内容が結びついていることを理解させ、今行っている運動がどのような体力と関わって結びついているのかを考えさせる。</p>					つまずきやすいポイント	<p>①体ほぐしの運動では、ペアやグループ学習にすると自ら仲間と関わりに行くことができない生徒がいる場合がある。</p> <p>②体の動きを高める運動では、現在行っている運動と高まっている体力の結びつきを理解できない生徒がいる場合がある。</p>						
							工夫・手立て	<p>①体育委員や学級委員などの中心となる生徒とあらかじめペアを作るよう促したり、鬼ごっこなどの全体が関わり合うような運動を多く取り入れるようにする。</p> <p>②毎回の授業において、現在行っている運動はどこの体の動きを高める運動になっているかを板書したり掲示したりすることで明確にし、常に意識して運動をさせるように心がける。</p>					
評価規準													
知識・技能	<p>・体づくり運動の意義には、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・体の動きを高めるには、安全で合理的に高める行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・体の動きを高めるには、適切な強度、時間、回数、頻度などを考慮して組み合わせる方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・運動の組合せ方には、効率のよい組合せとバランスのよい組合せがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p>				思考・判断・表現	<p>・体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。</p> <p>・体の動きを高めるために、自己の課題に応じた運動を選んでいる。</p> <p>・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に対しては、仲間との関わり方を見付けている。</p> <p>・体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を見付け、仲間に伝えている。</p>				主体的に学習に取り組む態度	<p>・体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>・一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとしている。</p> <p>・ねらいに応じた行い方などについての話し合いに参加しようとしている。</p> <p>・健康・安全に留意している。</p>		
	<p>・学習カード</p> <p>・実技テスト</p> <p>・定期考査</p>					<p>・学習カード</p> <p>・実技テスト</p> <p>・定期考査</p>					<p>・行動観察</p> <p>・学習カード</p>		

学年							小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	陸上競技 (18時間)				系統性の	小学校では、低学年の「走・跳の運動遊び」、中学年の「走・跳の運動」、高学年の「陸上運動」で、幅広い運動の学習をしているため、中学校では、陸上競技に求められる基本的な動きや効率の良い動きを発展させて、各種目特有の技能を身に付けることができるようにすることが求められる。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
4 ・ 5 ・ 12 ・ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走、リレー クラウチングスタート、50m走、バトンパス、リレー ・長距離走 1500m走、12分間走、ロードレース大会 <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 体力テストの点数表や、前時の自分の記録などを毎回提示し、自分の到達可能だと考える目標を設定させて、自己実現の機会を多くして評価する。</p> <p>〈対話的〉 バトンパスや12分間走では、ペアの中でフォームをチェックし合ったり、ラップタイムを意識し合ったりするような対話の機会を多くさせる。</p> <p>〈深い学び〉 バトンパスでは、どのように受け渡しをしたらタイムが縮まるか。長距離走では、どのような呼吸法が自分に適しているか。など、自らに適した方法を模索させる。</p>					つまづきやすいポイント	<p>①クラウチングスタートでは、自分に適した足の位置などが分からないままにしてしまう。</p> <p>②長距離走では、運動強度に耐えられず意欲を失ってしまう生徒がいる。</p>		
						工夫・手立て	<p>①クラウチングスタートの際の足の置き位置を細かく指導し、ペアで確認させるなどして徹底する。その上で、自分に適した足の位置を少しずつ決めていくような段階を踏んで指導していく。</p> <p>②速く走ることより、ペースを守って走ることに焦点を当て、それが達成できたときに適切に評価する。</p>		
知識・技能	<p>次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。</p> <p>短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡してタイミングを合わせること、長距離走では、ペースを守って走ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ・実技テスト ・定期考査 					思考・判断・表現	<p>動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ・実技テスト ・定期考査 		
						主体的に学習に取り組む態度	<p>陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・学習カード 		

学年													
小学校						中学校			小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画				
1	2	3	4	5	6	1	2	3					
月	単元名	器械運動 (6時間)				系単元性の	前転や後転など、基本的な技は小学校5、6年生で既習している内容となるため、中学1、2年生では技をよりよく行わせると共に、発展技に挑戦させるように指導する。						
11	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫							
	<p>・マット運動 オリエンテーション 回転系と巧技系の技の習得 発表</p> <p>〈主體的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主體的) 自ら技のまとめりや、系統について知り、自らの意志で挑戦する技を選択させる。選択した技ごとに最高点を提示し、その最高点を目標として主體的に練習をさせる。 (対話的) ICT機器などを活用して、お互いに映像を撮るなどすることで、互いの良いところや改善点などを話し合う活動を取り入れる。 (深い学び) 技の系統や技群ごとに美しく見せる方法を提示することで、技の完成度を高める喜びを味わわせる。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①回転と同時に手の平をマットにきちんと付けることが難しく、前転系や後転系ができない。 ②柔軟性が無い生徒は、開脚や伸膝系の技が難しい。 ③自らの動きを客観的に捉えられないので、手足をきちんと伸ばしたり美しく見せたりすることができない。</p>							
	工夫・手立て					<p>①ペアで学習をさせ、補助させ合うことにより、手のひらをマットに付けることを徹底させる。 ②授業の導入時に柔軟運動を取り入れる。放課後の宿題として、柔軟運動をさせる。保護者にも協力を仰ぐようなチェックシートを用意する。 ③ICT機器を利用して、自らの動きを客観的に視覚的に捉えて自らの動きを把握させる。</p>							
評価規準													
知識・技能		<p>技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができ</p> <p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>				思考・判断・表現		<p>技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>		主體的に学習に取り組む態度		<p>器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康・安全に気を配っている。</p> <p>・行動観察 ・学習カード</p>	

学年												
小学校						中学校		小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画				
1	2	3	4	5	6	①	2	3				
月	単元名	水泳 (11時間)				系単元性の	小学校では、「水の中を移動する、潜る・浮く運動遊び」や「クロール・平泳ぎ」などの幅広い未井に関する動きを学習している。これらを受けて中学校では、泳法を確実に身に付け、効率的に泳ぐことができるようにすることが求められる。また、小笠原では、小学校高学年から遠泳大会を行っており、海の中でいかにペースを守って泳ぐかということを学習できている現状がある。					
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫					
6 7 8 9	<p>・水泳 クロール、平泳ぎ、10分泳、遠泳大会、AED講習</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 (主体的) 習熟度別に学習させるために学習課題に応じていくつかのグループに分け、自分の泳力に応じて自ら課題を選択することで、目的意識をもって取り組ませる。また、10分泳では記録の向上に挑戦することで自ら進んで学習に取り組ませる。 (対話的) ペアでフォームのチェックや、10分泳のペースの管理をしようなど、どう泳いだら効率良くなるかを話し合う機会をつくる。 (深い学び) 学習の導入の場面などで、背泳ぎやバタフライに必要な補助運動を取り入れるなどして、新たな泳法に触れさせる。</p>						つまずきやすいポイント	<p>①泳ぐことに苦手意識をもっている生徒が多い。</p> <p>②幼少期から海で遊んでいるため水に浮かぶことはできるが、細かい泳法を学んでいるわけでは無いため、適切なフォームで泳げない生徒もいる。</p>				
							工夫・手立て	<p>①習熟度別に学習を行う際に、ビート板などの補助道具を用いて初期段階から学び直させる。</p> <p>②ペア学習や、個別指導を通してクロールと平泳ぎの適切なフォームを指導したり、お手本を動画で見せるなどして良いフォームを習得できるようにする。</p>				
評価規準												
知識・技能	記録の向上や、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けること。 クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぎ、平泳ぎでは、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。				思考・判断・表現	泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。				主体的に学習に取り組む態度	水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。	
	<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 					<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 					<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 学習カード 	

学年										
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画			
1	2	3	4	5	6	①	2	3		
月	単元名	球技 (21時間)				系単元性の	小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとして学習に取り組んでいるため、中学校では、基本的な動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。			
学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫					
9 ・ 10 ・ 1 ・ 3	<p>球技</p> <p>①バレーボール オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサービス、審判法、ゲーム</p> <p>②ソフトボール キャッチボール、トスバッティング、ゲーム</p> <p>③バスケットボール パス、ドリブル、レイアップシュート、ゴール下のシュート、3on2、ゲーム</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 〈主体的〉 ペアやグループなどで教え合いの機会を多くすることで、関わり合いの中で主体的に学習に取り組むようにする。 〈対話的〉 条件付きの練習やゲーム、また正規のゲームを通してチームがより良くなる方法を話し合わせる機会を多くし、そこで出たアイデアを発表するなどの活動を行うことで言語活動を多くする。 〈深い学び〉 どの球技においても作戦会議の時間を多くし、競技の特性やチームの能力に応じた作戦を立てて実行し、それに対するの振り返りを行うなどして深い学びへと繋げていく。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①ボールに対して恐怖心をもってしまってボールに関われない生徒がいる。</p> <p>②得意な生徒とそうでない生徒の二極化が生まれてしまう。</p> <p>③チームの活動に積極的に参加できない生徒がいる。</p>				
						<p>工夫・手立て</p> <p>①まずは、ボールに慣れるような補助運動をオリエンテーションの中で取り入れる。そしてそれを毎回の導入時に行うなどして徐々に恐怖心を除いていく。</p> <p>②習熟度に差がある生徒同士をペアにすることで、教え合いの中で学習する機会を多くする。</p> <p>③チームの活動だけでなく、個人でも本時の内容を振り返られるような学習カードを用いる事で、自分の課題や振り返りをチームでも共有できるような動きかけを意識する。</p>				
評価規準										
知識・技能		<p>ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きを知り、ネット型ではボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きを知り、ベースボール型では基本的なバット操作とボール操作をすることを覚えることで、球技の勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、仲間と連携してゲームを展開すること。</p>			<p>思考・判断・表現</p>		<p>攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p>		<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	
		<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>					<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>		<p>・行動観察 ・学習カード</p>	

学年										
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画			
1	2	3	4	5	6	①	2	3		
月	単 元 名	武道 (12時間)				系 単 統 元 性 の	小笠原では、小学校段階で学校外で柔道や剣道を習っている生徒も少なくないが、武道は中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる動きを確実に身に付け、それらを用いて相手の動きの変改に対応した攻防を展開することができるようにすることが求められる。			
					学習活動		「わかる」から「できる」授業への工夫			
5 ・ 6	<p>剣道 礼法、防具の着装の仕方、基本動作(体さばきや構え方、基本の打突)、判定試合</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 〈主体的〉 生徒が武道というものに親しみやすくするために、最初は活動を多く取り入れ、竹刀を扱うことなどの楽しさを味わわせる。その上で剣道の特性や成り立ちを指導していくことで、興味関心をもって学習に向かわせる。 〈対話的〉 判定試合において、お互いの技術を評価し合い、その根拠も説明させる活動をグループで行うことにより、言語活動を多くする。その際には、見るべき視点を教師側が示すことによって生徒が評価しやすくするなどの工夫が求められる。 〈深い学び〉 礼法や技術を教えるだけでなく、武道の歴史的背景にも触れながら特性や成り立ちを理解させていく。</p>					<p>つま ず さ き や す い ポ イ ン ト</p>		<p>①大きな声を出すなどの充実した氣勢をもってできない生徒がいる。</p> <p>②体さばきと打突のリズムや連動性が取れずに、バラバラな動きになってしまう生徒がいる。</p>		
						工夫・手立て		<p>①補助運動や遊びの要素を取り入れることで、少しずつ声を出せるようにする。また、判定試合の評価項目の中に「声の大きさ」等を入れ、その成長を評価していくことで自己実現につなげていく。</p> <p>②自分の動きを客観的に見るために、ICT機器を利用する。</p>		
評価規準										
知識・技能	<p>剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をする学習を通して、技ができる楽しさや喜びを味わうと共に、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解した上で基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。</p>					思考・判断・表現	<p>攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。</p>			主体的に学習に取り組む態度
	<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>						<p>・学習カード ・実技テスト ・定期考査</p>			

学年												
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画					
1	2	3	4	5	6	①	2	3				
月	単元名	ダンス (11時間)				系単元性の	小学校では、表現リズム遊びや表現運動などを通して、題材の特徴、リズムや踊りの特徴を捉えて踊ったりすることを学習している。中学校では、イメージを深めて表現することや、リズムに乗って全身で踊る事などができるようになることが求められる。小笠原では、小学校段階から学校外で習い事としてダンスを経験していたり、伝統文化であるフラダンスを習っている生徒もいる。また、小学校3年生で南洋踊りを既習しているため、ダンスの経験をもっている生徒がほとんどである。					
9・2	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫						
	<p>現代的なリズムのダンス グループ学習、発表 連合運動会に向けての全校での取組</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 〈主体的〉 いくつかのグループに分け、ダンス経験者からリーダーをつくり、リーダーを中心に自分たちで曲や振り付けを考えさせて学習する活動を取り入れる。 〈対話的〉 生徒同士の教え合いや発表会の中で、お互いを評価し合う時間を取り、アドバイスや反省点を指摘し合う活動を取り入れる。 〈深い学び〉 連合運動会では、全校での発表となるため、異学年との交流の中で更に深い技術や表現の仕方を学ぶ事ができる。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①ダンスを習ってきていない生徒が苦手意識をもつことがある。 ②細かいステップや速いリズムについていけない生徒がいる。</p>						
						<p>工夫・手立て</p> <p>①習熟度を考慮してグループ分けをすることで、教え合う機会を多くする。また、見合う活動を通して評価してもらう経験から、自ら学ぶ意欲を醸成する。 ②細かいステップや速さにこだわるより、集団としての見栄えを意識させ、大きな動きやまとまりの中で表現するような指導をしていく。</p>						
評価規準												
知識・技能		現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることを通して、感じを込めて踊ったりみんなと踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をする。				思考・判断・表現		表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。			主体的に学習に取り組む態度	
		<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 						<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 実技テスト 定期考査 			<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 学習カード 	

学年										
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画			
1	2	3	4	5	6	①	2	3		
月	単 元 名	保健分野 (16時間)				系 単 統 元 性 の	小学校では、健康の大切さや健康によい生活、病気の起こり方や予防などについて学習している。それを踏まえて中学生では、人間の健康は主体と環境が関わり合っていることや、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対処する適切な対策があることについて理解できるようにする必要がある。			
通 年	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>健康な生活と疾病の予防①(5～6時間) 健康の成り立ちと疾病の発生要因 運動、食生活、休養、睡眠と健康 調和の取れた生活</p> <p>心身の機能の発達と心の健康(10～11時間) 体の発育・発達 呼吸器・循環器の発育・発達 生殖機能の成熟 異性の尊重と性情報への対処 心の発達 自己形成と心の健康 心と体の関わり 欲求と心の健康 ストレスによる健康への影響 ストレスへの対処方法 (主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫) (主体的) 自らの身体のことにも目を向けさせ、この学習内容が、生涯にわたってよりよく生活していくうえで欠かせないことを理解させることで、興味関心をもって学習できるように促す。 (対話的) 自らの生活や状況と、学習内容と照らし合わせてより良い生活態度にしていくためにどの様な工夫や方法があるかを具体的に考えさせ、発表し合い、評価し合う。 (深い学び) 自らの生活につながるように、学習前と学習後に自らの生活態度に改善が見られたかなどを、ワークシートによる自己評価や保護者からの評価によって確認し、生涯にわたってよりよい生活をしようとする態度を育てる。</p>						<p>つま ず き や す い ポ イ ン ト</p> <p>①客観的に自分の生活を振り返り、自らの生活と照らし合わせることができない生徒がいる。 ②生殖機能の成熟などの内容に戸惑いを抱く生徒もいる。</p>			
							<p>工 夫 ・ 手 立 て</p> <p>①保護者の協力を得るなどして、客観的に見た自分の生活状況はどうなのかを振り返る機会を設ける。 ②養護教諭と連携して、展開を考えて指導内容を工夫したり、ITで授業を行ったりすることで、生徒の戸惑いを和らげていく。</p>			
評価規準										
知識・技能	健康な生活と疾病の予防には、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることや運動、食生活、休養・睡眠などの調和の取れた生活が健康の保持増進に大きく関わっていることを理解している。 心身の機能の発達について、身体の発育発達の程度や人によっての違い。また生殖に関わる機能の成熟についてや欲求・ストレスへの対処法などを知り、理解している。				思考・判断・表現	健康な生活と疾病の予防や心身の機能の発達について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。			主体的に学習に取り組む態度	健康な生活と疾病の予防や心身の機能の発達についての学習など、自他の健康の保持増進について自主的に取り組もうとしている。
	・ワークシート ・定期考査					・ワークシート ・定期考査				・ワークシート ・行動観察

学年									
小学校						中学校	小笠原村立小笠原中学校 保健体育科 1年 年間指導計画		
1	2	3	4	5	6	①	2	3	
月	単 元 名	体育理論 (年間3単位時間程度)				系 単 元 性 の	体育理論は、主に中学校期における運動やスポーツの合理的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する化学的知識等を中心に示しているため、これからの生活に関連付けて系統性を保っていけるような指導が求められる。		
通 年	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>運動やスポーツの多様性 運動やスポーツの必要性和楽しさ、多様な関わり方、多様な楽しみ方</p> <p>〈主体的・対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉 〈主体的〉 自らの生活やスポーツライフと関連付けることで、興味関心をもって学習に取り組めるようにする。 〈対話的〉 学習内容について、自らの考えを発表することや、相手の考えを傾聴するなどの時間を取り入れる。 〈深い学び〉 学んだ内容が、今後の人生でどのように活かすことができるかなど、自分の将来につながる学習内容であることを確認する。</p>						<p>つま ず き や す い ポ イ ン ト</p> <p>①運動やスポーツにあまり興味や関心もなく、関わっていない生徒は、自らの生活と関連付けたり意欲的に学習に取り組むことができない。</p>		
							<p>工夫・手立て</p> <p>①スポーツは、するだけでなく、見たり支えたりする関わり方もあるということを理解させ、その関わり方でできる方法を考えさせる。</p>		
評価規準									
知 識 ・ 理 解	運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性や、競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。また、行うこと、見ること、支えることおよび知ることなどの多様な関わり方があること。世代や機会に応じて、生涯にわたって楽しむために、自己に適した多様な楽しみ方を見付け、工夫することを理解している。				思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	運動やスポーツの必要性和楽しさについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。運動やスポーツへの多様な関わり方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。運動やスポーツの多様な楽しみ方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。			
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 定期考査 					<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 定期考査 			
						主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	<p>運動やスポーツの必要性和楽しさや多様な関わり方、多様な楽しみ方についての学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート 行動観察 		